地域学校協働活動『地域と共にある学校づくり』における

# 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の役割

奈良市富雄中学校区　総合コーディネーター　新谷　明美

少子高齢化社会の現代の子どもたちは多くの大人に囲まれ、十分な教育環境が整っているように見えますが、そうでしょうか。
プライバシーを重視する現代、子どもたちはどれくらいの『大人』と関わりを持てているのでしょうか。
子どもたちの成長には年齢に応じた体験が必要であり、身近な小さな社会から少しずつ輪を広げ、自分と社会との関係性を築いていく学びが必要です。
それは学校の中だけで実現できるものでしょうか。
私たちの未来を担ってくれる子どもたちがどんな人材に育つのか。それは未来の社会がどうあって欲しいのかということとイコールであり、全ての大人の責任でもあります。
よりよい教育によってよりよい社会を築くため、教育を学校の中だけに限らず、広く社会と連携するという考えは、国が提唱している『社会に開かれた教育課程』という考え方と同じものです。
ですが、子どもとの関りが薄く、「自分には関係がない」と、当事者意識を持てない世代が多いのも現状です。
また、目に見えない経済的、社会関係的、家庭的格差が子どもたちに大きな影響を与えているのも現代です。
これまでも子どもたちの育ちには家庭、学校、地域の３者の連携が大事だと言われてきましたが、この変化の激しい社会にたくましく、夢をもって未来を切り開く「生きる力」を育むためには、地域社会の力がますます必要であり、重要であると言われています。
こういった課題に対応するためのシステムがこの**地域学校協働活動**であり、これを円滑に、効果的に実践していくキーマンが**地域学校協働活動推進員（コーディネーター）**の皆さんです。

## 協働とは

かつてこの地域学校協働本部事業に類似した『学校支援地域本部事業』というものがありました。
これは「あまりにも忙しい日本の教員に地域からのサポートを」という考え方が含まれていました。いわゆる支援です。
これが現在は「地域と学校が手を取り合い、共に子どもたちを育む」協働という考え方に移行してきました。その活動によって「**子どもたちが何を学ぶのか**」という所に視点が置かれています。
ですが、地域学校協働本部が設置されたからといって活動が「協働」になるのではなく、全国的に見てもまだまだ「協働を目指している」という状態です。
地域と学校の関係は少しずつ成長していきます。はじめの入り口は簡単なことからでも構

いません。「何のために」「誰のために」「学校にとっても地域にとっても無理のない形で」ということを協議し、PDCA サイクルを作ることによって成長します。
「協働」とは「課題と目的を共有」している関係をいいます。

**子どもたちの成長に関わることによって、その関わる大人たちも共に学び合う関係。**
**子どもたちの学びを応援することによって、地域も子どもたちのパワーをもらえる関係。**
そういう『地域と共にある学校づくり』を目指します。

## 子どもたちに身に着けてもらいたい力とは

子どもたちに身に着けてもらいたい「生きる力」とは何でしょう？！
学力とは知識や技能を身に着けること、思考力・判断力・表現力を育成すること、そして人間性・学ぶ意欲を育むことだと定義されています。
そして協調性や思いやり、感動する心などにつながる豊かな感性と健やかな体などを含め「生きる力」と表現することができると思います。
ですが、子どもたちの課題として自己肯定感、自己有用感が低いという現状があります。これでは学力が自分自身のためのものではなく、成績や受験など表面上のものになりかねません。
「自分は必要とされている」「自分は認められている」と感じることが子どもの成長にとってはとても重要であり、その感覚は保護者でもない、教師でもない第３の大人である地域社会とのかかわりによって大きく育てることができます。
大事にされている、応援されているという自信をもって様々なことにチャレンジする力を身に着ける過程において、周りの大人の「寄り添う」という姿勢が大切になります。

## 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）とは何をする人？！

どんな人が地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）（以下、推進員）になるのでしょうか？！
古くからの地縁がある人、自治会組織の長の方、元校長等々イメージされる方も多いのですが、決してそんな方々だけではありません。

### 出会い、つながる

推進員は学校と地域を、人と人をつなぎます。人脈のある方とつながればいいので、多くの人脈を持っていなくても大丈夫です。地域のことに詳しい方につながればいいので、古くからの住民でなくても大丈夫です。
そんな出会いやつながりを義務ではなく、自ら楽しめるような人が向いているのかもしれません。相手の立場、考えを理解し、尊重し、双方が「やってよかった」と思える関係作りをします。

### 好奇心・向上心

協働活動に「これが正解」「これをやらなければ」というものはありません。各学校の教育目標に照らし合わせ、その学校にとって、その地域にとって必要な独自の取組を模索します。
ですが、初期段階では何から手を付けたらよいのかわからないということもあります。
まずは様々な立場の人が熟議をし、何から始めるのかを協議によって決めていくことが大事ですが、取組みは模倣(真似)から始めても大丈夫です。
全国の先進的な取り組みを知り、その中からアレンジできることを選ぶこともできます。
そういう意味からも推進員の皆さんには情報をキャッチし、学び、好奇心をもって「面白がる」スキルを身に着けていただきたいと思います。
模倣はしっかりとしたコーディネートによってオリジナルになります。

### ボランティア（支援者）との関係

推進員とボランティア（支援者）の立場は明確に区別しなければいけません。
推進員は学校と地域をつなぐ橋渡し的な存在です。地域の皆さんにとっての「学校の窓口」であり、学校にとっての信頼できる「地域の窓口」になることが期待されています。
まずは学校の状況、考え方をしっかりと理解しましょう。
たとえ同じ活動をしていてもボランティア（支援者）はお礼を言われる立場であり、推進員は学校に成り代わってお礼を言う立場にあります。
ボランティア（支援者）は自由意思によりますが、推進員は少なからず責任感をもって活動していただく必要があります。

### コーディネート

様々な取り組みに対して、時間、場所を設定し、必要な人材を募るのが推進員の大きな役割になります。そして、その取組が支援で終わるのではなく「協働」になるべく「場」を整えるのも推進員の重要な役割の一つです。

## 持続発展可能なシステムへ

これまでも地域社会が学校を支えている様子が各地にみられました。
ですが、今あることがこれからもあるとは言えないでしょう。
この少子高齢化社会にあって、子どもたちにどのように育ってもらいたいのか。そのために何をしなければならないのか。
考え、手を取り合い、協働するという関係を今構築し、時代が変わっても持続し、発展できるシステム作っているのです。
そんな中で活動している推進員の皆さんにかけられている期待は大きいものがあります。
ですが、推進員の皆さん自身が負担に感じるのではなく、「楽しめる」ことが発展への一番の要素です。
そのためにも仲間を作ってください。推進員同士でつながってください。市町村で。都道府県で。そして全国で。志を同じくし、地域社会や学校や子どもたちと共に活動を楽しんでいる仲間がたくさんいます。
まずは皆さんが生き生きと楽しんで活動されますように、心より応援しております。